



こころ  
の  
うた  
詩

身心不自由児者

心のままの文集

小松市肢体不自由児・者父母の会  
かけぼうし(ボランティア)2の会

# 心の詩

身心不自由児者 心のままの文集

## 当会略歴

昭和41年4月1日 小松市肢体不自由児協会発足  
初代会長 大橋徳太郎（故人）  
平成4年4月 小松市肢体不自由児・者父母の会に改称  
平成4年1月 かげぼうし（ボランティア）2の会発足

代表世話人 宮越 和夫 沼 孝行  
輪島 久子 堀江 哲男  
中出 繁男

### 〈問い合わせ先〉

〒923 石川県小松市吉竹町ね12番地  
電話・FAX 0761(22)8024  
中出まで

## 心の詩 身心不自由児者必のままの文集 定価1000円(税込)

---

平成8年3月30日初版発行  
■編集 小松市肢体不自由児・者父母の会  
■発行 小松市肢体不自由児・者父母の会  
■制作・発売 株式会社北國新聞社出版局

---

本書の著作権は小松市肢体不自由児・者父母の会が所有します。  
ISBN4-8330-0925-0 C0095

たしかな心の絆を……

小松市長 北 栄一郎

文集の発刊の目的は千差万別であって特定の分野に限定して深く突き詰めるものもあるでしょうし、気軽に発表の場として捉える時もあるでしょう。

この度、小松市肢体不自由児・者父母の会が企画した文集「心の詩」は自力だけではなかなか達成できない障害者の声を父母とボランティアの三者一体となって成し遂げ、障害者の隠れた才能の発表の場とすると共に「生きる糧」とし、広く社会に対しての啓蒙啓発の機会とするところに大変な意義を感じております。

作品の一遍、一遍を拝見させて頂く内に子から親への感謝やいたわり、親から子への慈しみが、しみじみと伝わってまいり、知らず知らずの内に心を打たれます。

不満や怒りを前向きな姿勢と感謝に置き換えて歌う仲間と共に一度だけの人生を切り開

いていく力強い意志や思いが感じられます。

障害者の人、家族の人、健常者の人、それぞれ立場や思いは違ってもこの「心の詩」を通じて十分な意思の疎通が図られるのではないでしょうか。

父母の会には常日頃から当市の障害者施策やボランティア事業に貴重なご意見やお力添えを頂いておりますが、なにとぞ今後とも三十年に及ぶ貴重な体験に基づくご意見を賜りますことをお願いいたしますと共に、会の益々のご発展をお祈りいたしましてご挨拶いたします。

## 心のふれあい

小松市教育長 木下 健次

この度、二年間の準備のもとで「心の詩」の発刊にいたったことを心からお祝い申し上げます。

お聞きしますと、この企画は小松市の肢体不自由児・者父母の会、かげぼうし（ボランティア）2の会が、全国の重度肢体不自由者や保護者に呼びかけ、このような立派な文集として結晶したとのことです。そのいずれの作品を拝見させて頂いても深く胸打たれ落涙せざるを得ません。

多くの作品は、病床においてのあるいは日々の暮らしの中での喜びや悲しみをうたったものですが、時にはいかり、時にはほのかな恋やあこがれをうたった作品もあります。不自由な体を桜の樹の下に運び自然との触れ合いの中で、ご自身の来し方行く末を思う歌も

あります。私達身体の健常な者が忘れてゆきつつある豊かな感性や想像力が、どの作品からも伝わってまいります。

このような素晴らしい「文集」が身心が不自由な皆さんとその保護者の方々に多くの希望と明日への生きる力を与えることと確信しております。

ここに至るまでの各位のご努力に深い敬意と感謝を申し上げます、お祝いのことばといたします。

## 文集発刊によせて

小松郵便局長 越川 洋男

この度、小松市肢体不自由児・者父母の会が、発足三十周年の記念事業として、文集「心の詩」を発刊されましたことに對し、心からお祝い申し上げますとともに、関係各位のご尽力に對し深く敬意を表します。

そして、数多くの応募作品の中から入賞された皆さん、おめでとうございます。また、応募いただいた皆さん、指導に当たられた先生方、温かく見守って来られたご家族の方々に對し、心からお礼申し上げます。

作品の一つ一つには、家族と離れて不安な気持ちの中、

一 自分が愛されていること

二 自分が家族の一員であること

三 自分が家庭で必要な存在であること

等が十分に感じられ、身体機能を少しでも改善するため、リハビリに励まれている様子もひしひしと伝わってきました。

郵便局では、文字離れが進む現在において「もっと手紙を書いていただきたい」「文字で心を伝える楽しさを多くの方々に味わっていただきたい」と、個人間通信の拡大を図るとともに、手紙文化の普及・発展を願い、各種施策を実施しています。

この度の、文集「心の詩」の発刊計画に際しまして、小松郵便局としても、その趣旨に深く感動し、微力ながら後援させていただきました。

今後とも、心身不自由な方々がハンディを克服して生きる「心の叫び」が、小松から全国へ発信され、お互いに生き甲斐を感じ、連帯の輪が大きくなりますよう念じています。

## 「心の詩」発刊によせて

北國新聞社小松支社長 西野外喜男

「幸せとは何だろう」——大それた人生のテーマをしみじみと感じます。「心の詩」を読ませていただいて、そう思ったのです。

近年、これほど「こころ」と銘打った出版物があふれている時代はありません。宗教や哲学から健康、家族のことまで。人間が究極に求めるものは何か、を示唆しているようです。そして、現代が「こころ」不在の時代であり、本当は「こころ」の中にこそある「幸せ」を見つけることができない人々が多いことを示しているのではないのでしょうか。

母と娘の作文がありました。幼くして両親を亡くして育った母は娘に「チーちゃんあんな幸せだよ」といいます。娘は、母親にそういわせた戦争を憎み、福祉や教育の大切さを訴え「みんなが幸せになるため」自分は何ができ、何をしなければならぬかをつづります。そこには障害者のハンディはありません。私たちが何気なく見過ごしている、人の優

しさや、社会の矛盾がここには素直な形で描かれています。

人は書くことや描くことで、初めて自分の心が見えてくることがあるのではないでしょうか。こんな詩もありました。「ワープロを打っていれば、何か いい言葉が 生まれてくるかもしれない」「さー行こう明日にむかって」。

この「心の詩」が読む人に勇気を与えてくれることを信じます。

## はじめに

身体どこにも悪い所が無い健常者も、身体の一部に不自由や不都合がある人も皆、普通の人です。最近は難病の範囲が広がって体内の不都合で身体障害者手帳をお持ちの方もたくさん居られますが、その人達を障害者と呼ぶ人はいません。気付く人もいません。健常者であるかないかは外見だけで判断されているのではないでしようか。

私達は心や体型は個性であって、差をつけられるものではないと信じています。

この文集の作者は重度肢体不自由児者の人達とその家族です。全面介助ですが、オシヤブリを改良したものでパソコンを作動させたり、ヘルメットに二十センチ前後の棒を固定して頭を振ることによってワープロを打ったり、両手が動かないので口にくわえた棒でワープロを打ったりして作品を完成させた人もいます。一字打つのにそれはそれは長時間かかり、大変な苦勞の連続で気が遠くなるような重労働です。

この方たちの作品に触れ、「今、自分にできることは何だろうか」という気持ちからこの文集の発刊となりました。熟読していただければ幸いです。



## 目次

|             |            |       |    |   |
|-------------|------------|-------|----|---|
| たしかな心の絆を……  | 小松市長       | 北栄一郎  | …… | 1 |
| 心のふれあい      | 小松市教育長     | 木下健次  | …… | 3 |
| 文集発刊によせて    | 小松郵便局長     | 越川洋男  | …… | 5 |
| 「心の詩」発刊によせて | 北國新聞社小松支社長 | 西野外喜男 | …… | 7 |
| はじめに        | ……         | ……    | …… | 9 |

## 歌 詞

|       |                 |    |       |              |  |
|-------|-----------------|----|-------|--------------|--|
| 江上佐和子 | あざみの花           | 16 |       |              |  |
| 五木 修一 | 心のふるさと          | 18 |       |              |  |
| 畑中 敏子 | 心の道             | 20 |       |              |  |
| 酒井 吉春 | 君の瞳に I LOVE YOU | 22 |       |              |  |
| 新 加根子 | 一度だけの人生         | 24 |       |              |  |
| 津幡 達雄 | 再起にもえろ          | 26 |       |              |  |
| 山崎 悟志 | 人生              | 28 |       |              |  |
| 中村 秋代 | 片思い             | 30 |       |              |  |
|       | 小さい花            | 31 |       |              |  |
|       |                 |    | 中村 松子 |              |  |
|       |                 |    |       | 中濱 祐介        |  |
|       |                 |    |       | 白根佐次郎        |  |
|       |                 |    |       | 佐部 正晴        |  |
|       |                 |    |       | 亀田まつお        |  |
|       |                 |    |       | 守川 政信        |  |
|       |                 |    |       | 青空           |  |
|       |                 |    |       | 両思いへの片道切符    |  |
|       |                 |    |       | ドラゴン・ピアス     |  |
|       |                 |    |       | いつしよに……      |  |
|       |                 |    |       | 心のままにSTEP UP |  |
|       |                 |    |       | どんぐりの木になりたい  |  |
|       |                 |    |       | 希望           |  |
|       |                 |    |       | 霊峰           |  |
|       |                 |    |       | 願い           |  |
|       |                 |    |       | CHAMPになりたくて  |  |
|       |                 |    |       | 希望に燃えて       |  |

河岸喜美枝 生きる喜びの歌  
西田 稔 はかなき夢

## 作文

中村かおる 母への手紙  
中俣喜美子 あつ喜美ちゃんが踊ってる  
松倉由記子 堅パンの冒険  
松倉 千里 約束完了  
北川千津子 八月に思うこと  
有東 武志 私とイエス様  
津幡 達雄 障害者の劣等感の克服  
中谷 与一 凍しこの手  
今日の幸せよ

## 詩

安達 直美 それでも  
草島 昇 ひとり芝居  
崎田 君枝 コインロッカー  
佐部 正晴 回想録 避難民  
自立

54 56 芹沢 環

60

65

66

70

73

75

77

78

82

86

88

88

89

92

田中 朝子  
中川 政信  
中狭 宣一

魔法のKISS

もう疲れちゃった

私の足

チョットだけ大人

自分が好き

あの頃に戻りたい

大好きだったおばあちゃん

Cry 君といつまでも

赤信号でストップ

時計

恋の道

地味なクリスマスパーティー

人の真似をする奥田さん

宣一が死んだら

勇気

二十四時間寝ていたい

お尻へミサイル

あなたを見ていたら

ボケたい

ハトのカップル

93 94 96 97 98 99 100 101 104 106 107 108 109 111 112 113 114 115 116 117

中村かおる

一人だけのデート  
希望

おなじだね

今 しあわせですか？

西田 享子

秋桜

貴方に好きですって告白できない

福田 孝浩

希望

藤村 光春

好きな人

南出つよし

友達でいいから

山保りつ子

涙のカレーライス

小さいハート

お呪い

山本 渉

ダントリウム

海

朝

夏は恋人

年金暮らし

痴漢行為

やすらぎ

## 短歌

北村 茂雄

崎田 君枝

桜

五月

螢

秋・冬

母

津幡 達雄

中谷 与一

## 俳句

有東 武志

上田美津子

心の糧

北村 茂雄

柴木 正夫

戸田 潤教

戸田 依子

父の日に寄せて

殿村 雅世

中谷 時夫

栗の花

135 134 133 132 131 131 130 129 129 128 127 126 125 124 123 121 120 118 118

160 159 157 154 153 151 149 148

145 143 142 141 140 139 138 138

中谷 与一

161

中出 修一

文集「心の詩」受賞者

発刊を終えて

167 163

題字 坂本伊助（清風）前陽光園長

装画 西出外佑

162